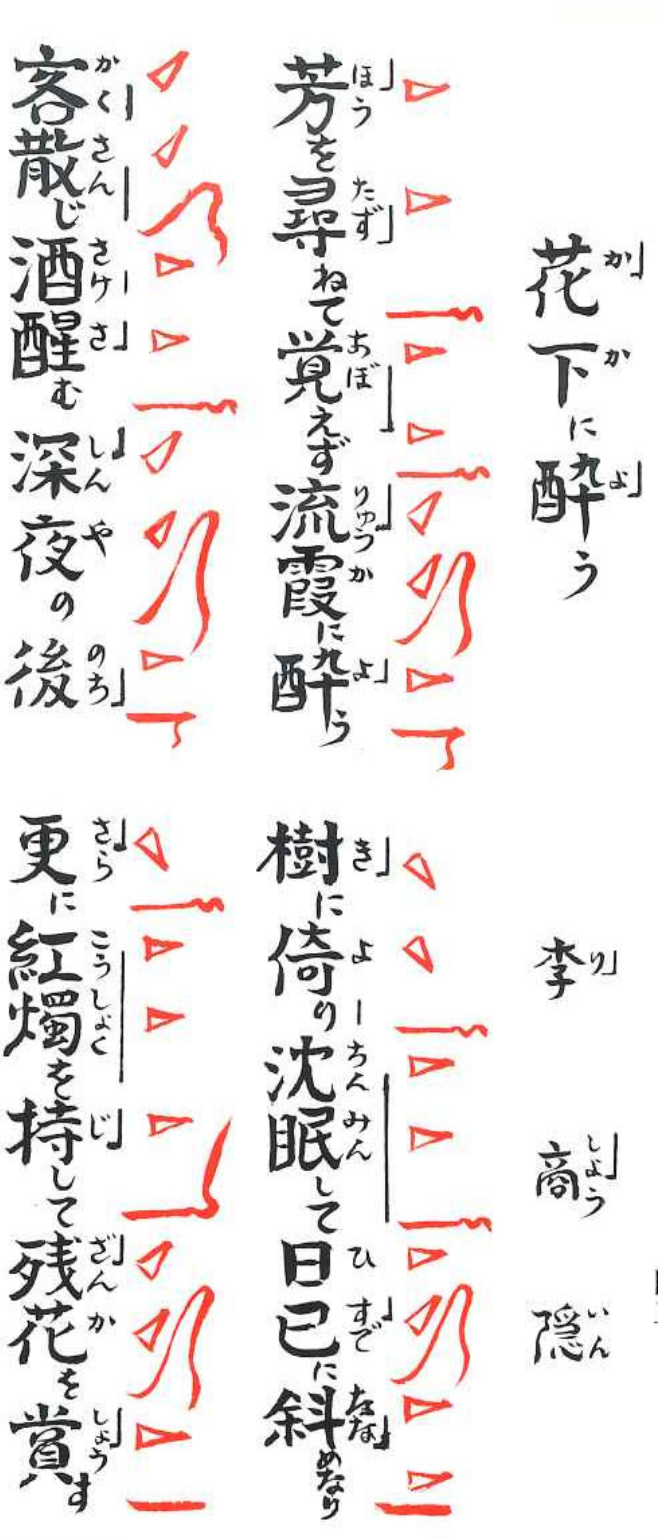

【作者】李商隠（八一二年～八五六年）・晩唐の詩人。杜牧、温庭筠（おんていん）らと同時代人。字は義山。河内（現・河南省）の人。玉溪生とも号した。独自の世界を開いた。

【語釈】＊花下酔…花のもとで酔う。　＊花下…花の美しく咲きにおう下。＝花底。　＊艶めかしい意味が隠された詩である。

＊尋芳…花を探し求める。　＊倚…もたれる。よりかかる。よる。　＊斜…かたむく。午後になって、日が西に傾いていること。

＊酒醒…酒の酔いが醒める。　＊紅燭…桃色のともしび。あかいともしび。　＊残花…散り残りの花。散り残って、すたれた花。

【通釈】花（自然界の花／美しい妓女）を探し求めているうちに、いつの間にか流霞（＝靄や雲気／仙界の酒）に酔ってしまい。。

木に寄りかかって熟睡してしまい、日も西に傾いている。他の人々が帰り、酒の酔いが醒めた深夜になってから。さらにまた、あかいともしびを手に持って散り残りの花を観賞した。